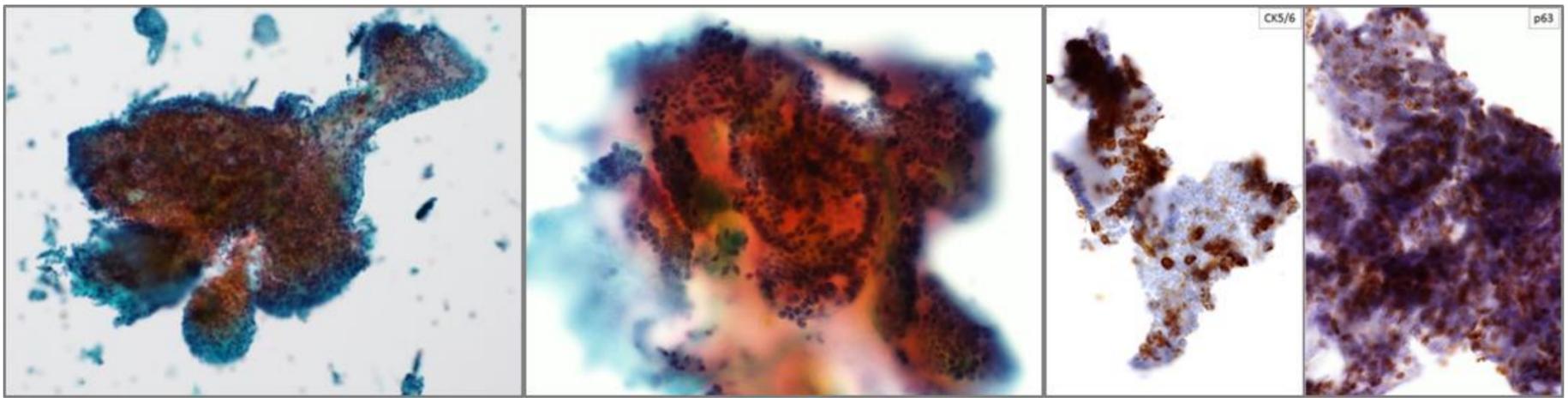
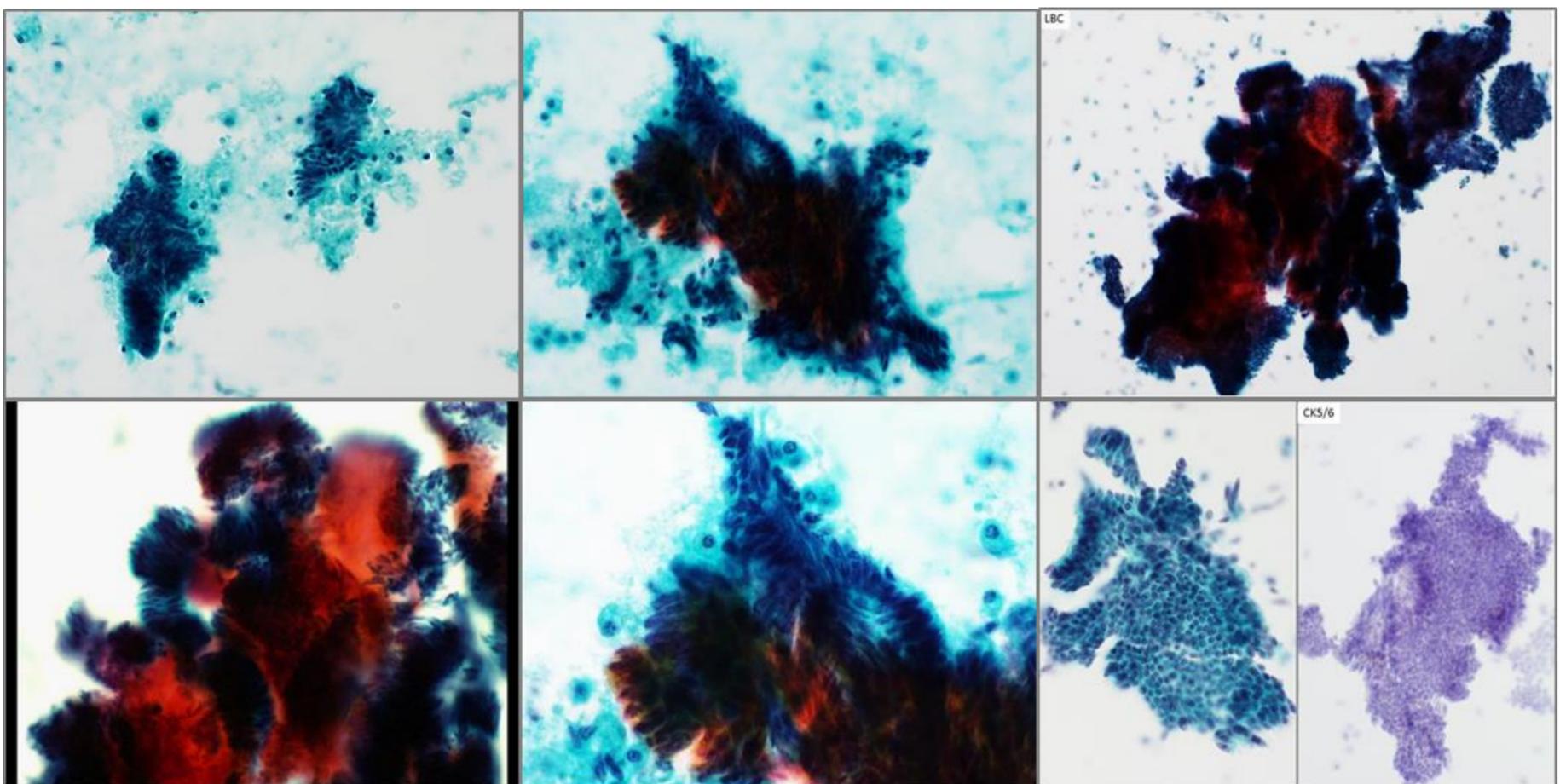


## 症例 1: Intraductal papilloma



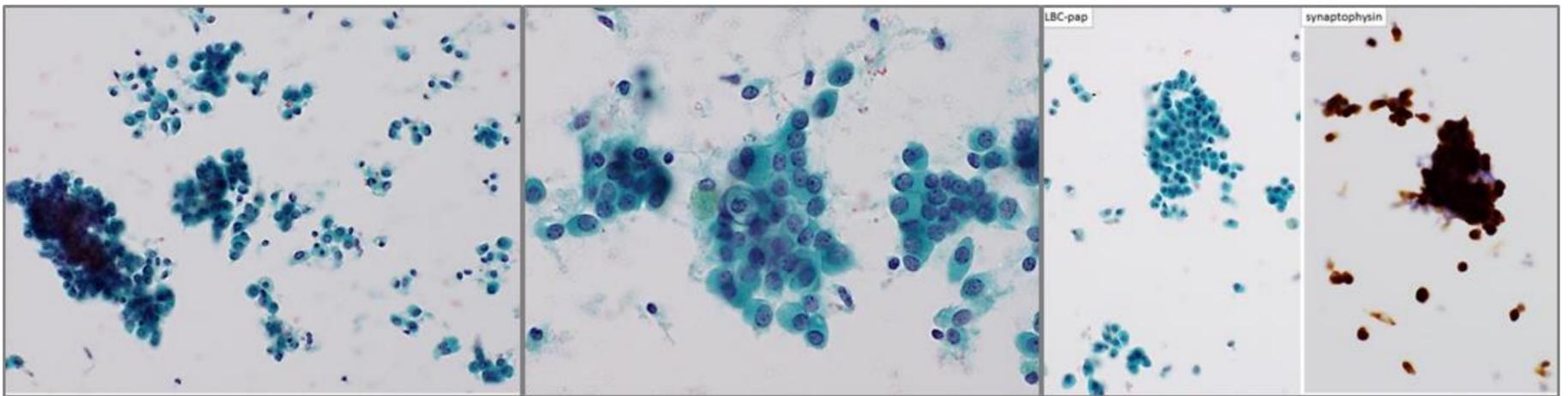
乳頭状集塊の出現や、背景の泡沫状マクロファージの出現から、嚢胞内乳頭状病変が示唆される。細胞集塊は全体的に結合性が強く、乳頭状集塊の中心には比較的太い線維性結合織が認められ、集塊内とくに腺上皮と線維性結合織の間には筋上皮の介在が窺われる。LBC検体を用いた免疫染色では、シート状集塊において高分子量サイトケラチン(CK5/6)のモザイク状陽性所見が認められ、p63陽性の筋上皮細胞の混在も確認できる。

## 症例 2: Encapsulated papillary carcinoma



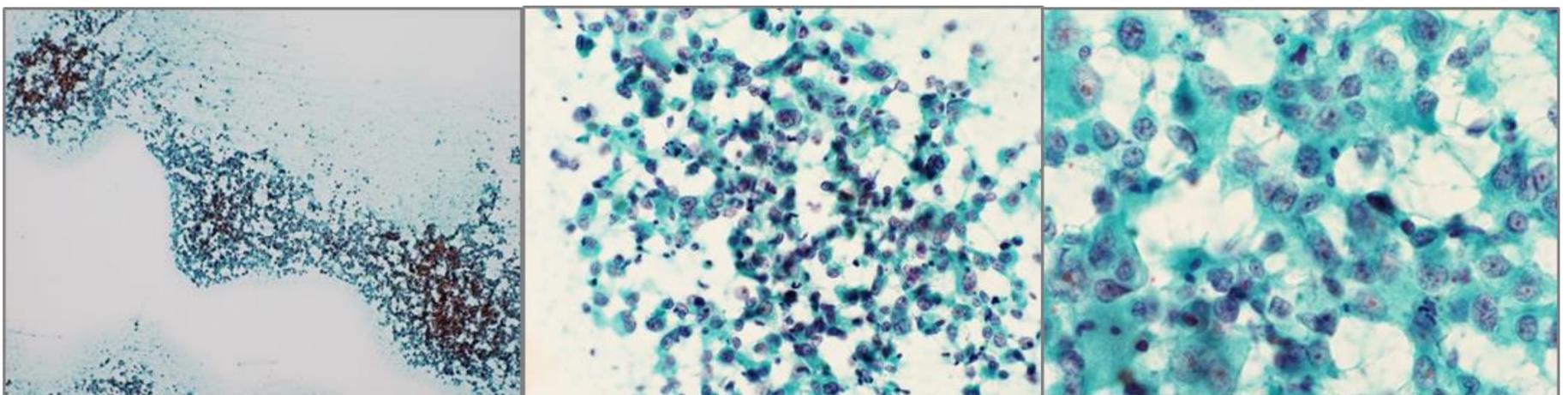
大型の乳頭状集塊が採取されており、背景には泡沫状マクロファージの存在から嚢胞内乳頭状病変が示唆される。集塊を形成する細胞は、紡錘形・楕円形核を持つ細胞質の乏しい円柱状細胞で、結合性はやや緩く、散在性を示す数個～単個の細胞としても観察される。乳頭状構造の間質は細く、乳頭状集塊内に筋上皮細胞の存在は確認できない。LBCを用いた免疫染色では、シート状集塊において高分子量サイトケラチン(CK5/6)は陰性で、モザイク状陽性所見は認められない。

### 症例 3: Solid-papillary carcinoma



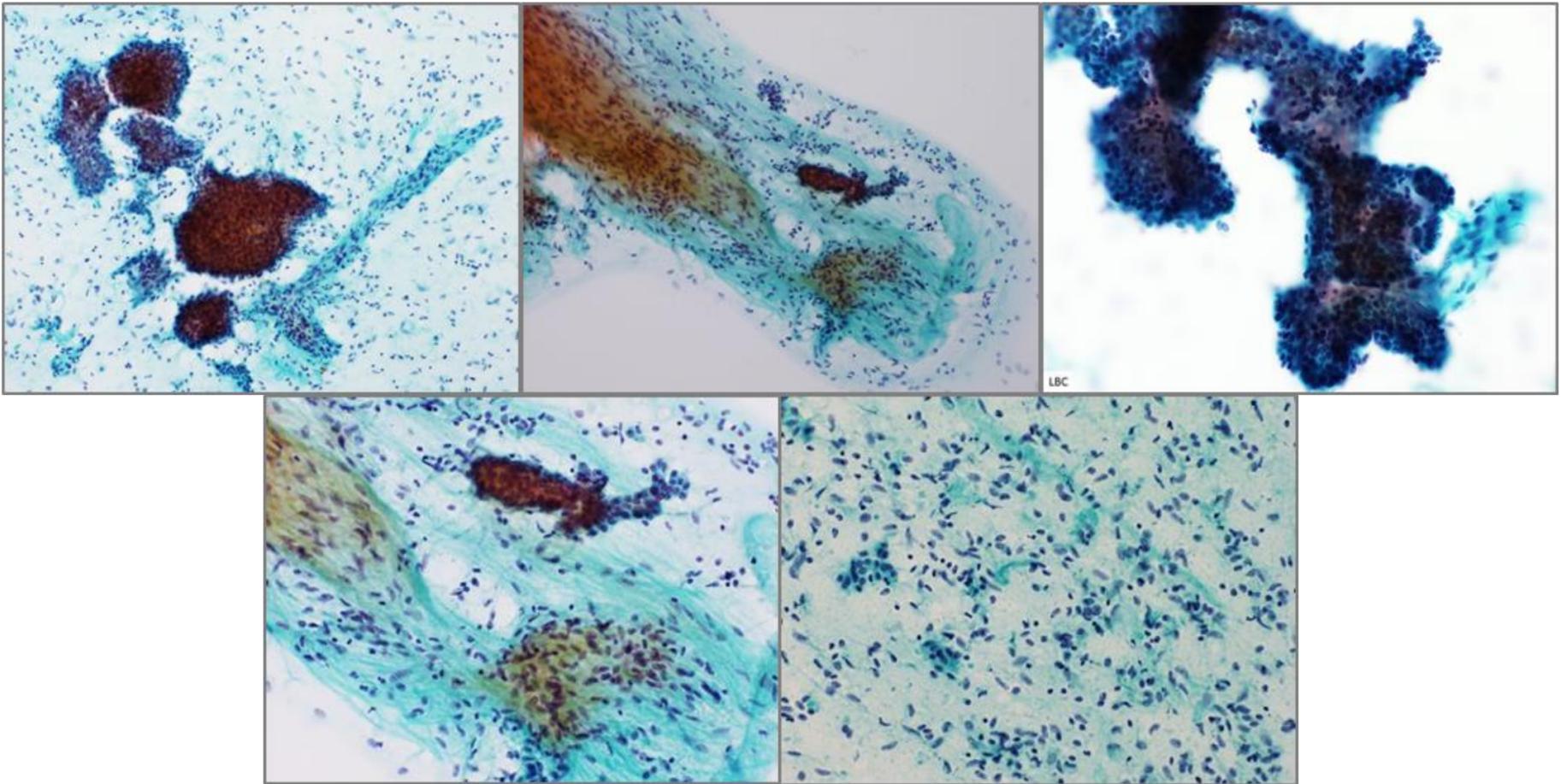
小型単調でクロマチンに富む、円形・多稜形の細胞が、小集塊状ないし孤在性に出現している。核はやや偏在傾向にあり、やや顆粒状の細胞質を有し形質細胞様の形態を示す細胞もみられる。LBC検体を用いた免疫染色では神経内分泌細胞への分化が認められる。

### 症例 4: Apocrine carcinoma



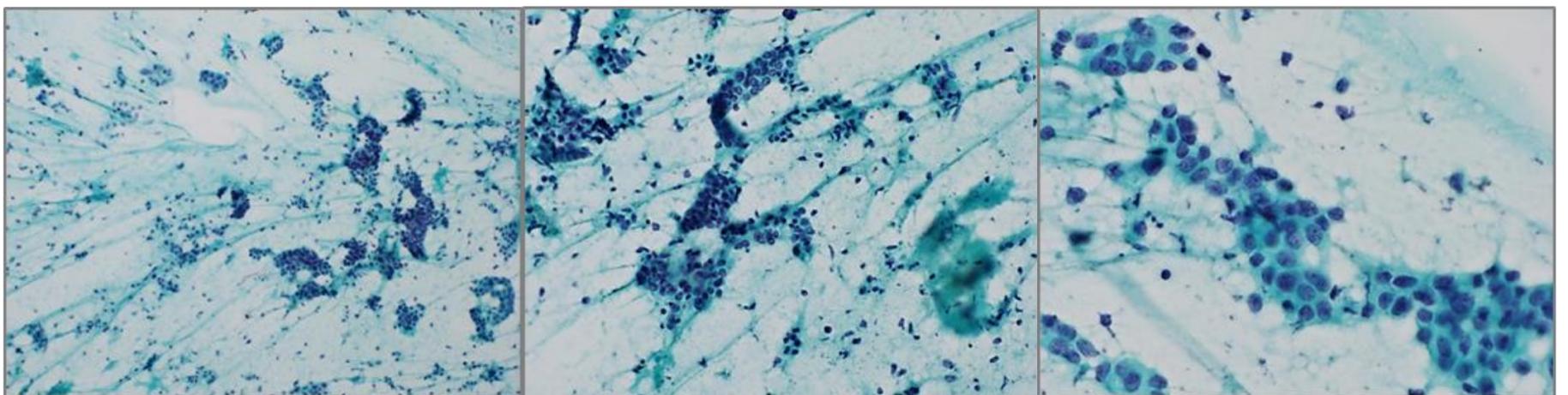
結合性の低下した細胞が、多数出現している。1個～数個の大型明瞭な核小体を有する類円形核と豊富な細胞質を有する、N/C比の比の低い異型細胞を認める。細胞質内にはライトグリーンあるいはオレンジGに好染するアポクリン顆粒がみられる。

## 症例 5: Fibroadenoma



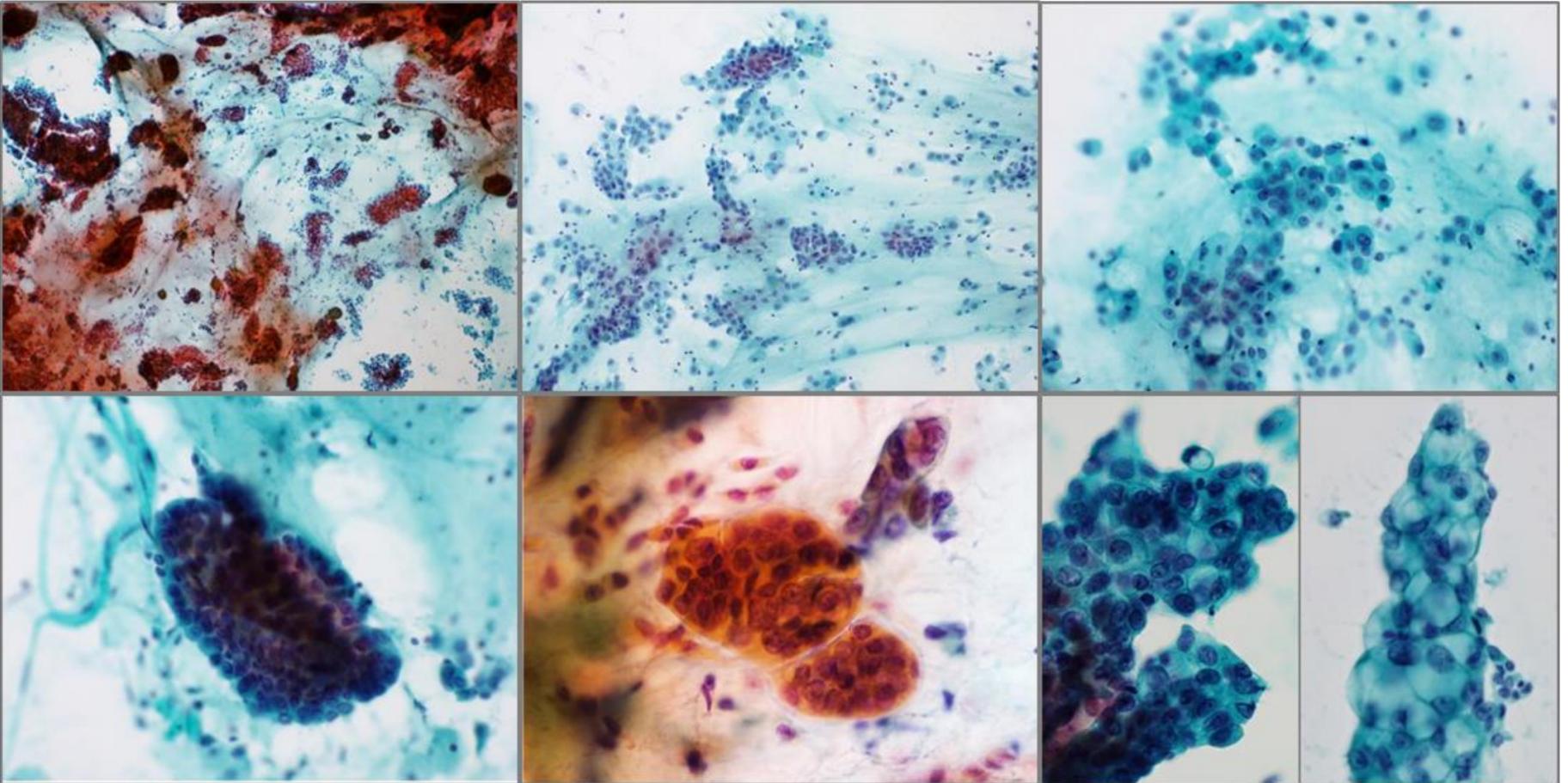
細胞量は豊富で、孤立散在性に出現する多数の双極裸核細胞を背景に、結合性良好な上皮細胞集塊や、線維芽細胞の核を含むライトグリーン好性の間質成分が採取されている。上皮細胞集塊には、シート状の集塊や、細乳管の構造を保持した集塊が認められ、筋上皮細胞の介在がうかがわれる。間質片に含まれる線維芽細胞に核の多形性や核分裂像は見いだせない。

## 症例 6: Invasive carcinoma of no special type



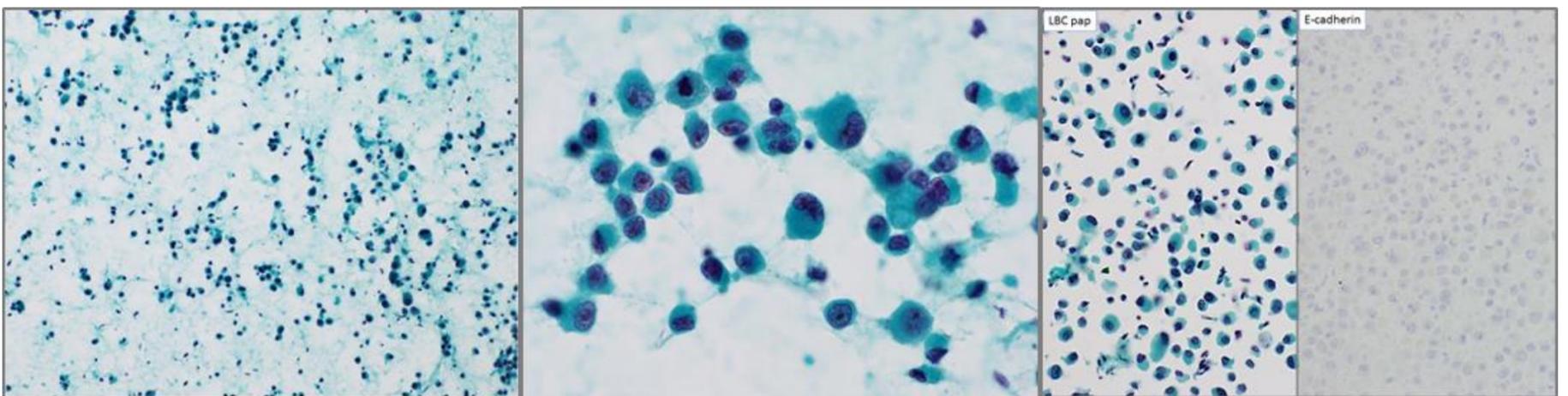
比較的小型多角形の細胞が、小型～中型の細胞集塊や細い索状配列を示して、あるいは孤立散在性に観察される。核にはクロマチンの増量がみられ、細胞集塊内に筋上皮は認められない。

## 症例 7: Mucinous carcinoma, mixed type.



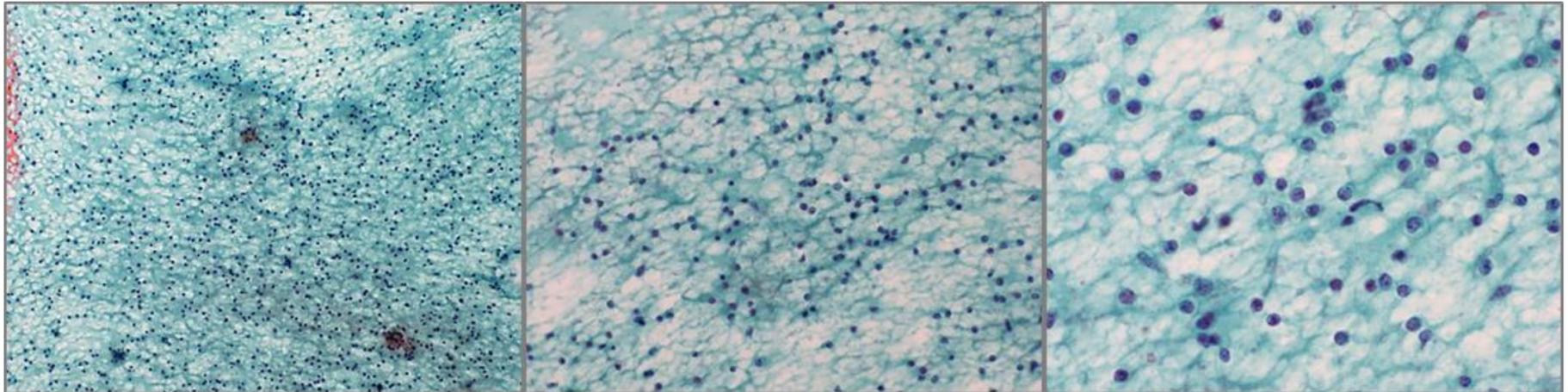
種々の染色性を示す多量の粘液様物質とともに、類円形ないし球状の細胞集塊が粘液に包まれるように、あるいは粘液に浮遊する様に出現している。細胞の大きさは比較的揃っており、核は小型円形で、細胞質内粘液を有する印環細胞様の細胞の混在もみられる。また、粘液の中に石灰化小体が認められるが、これは粘液癌ではしばしば観察される像である。

## 症例 8: Pleomorphic lobular carcinoma



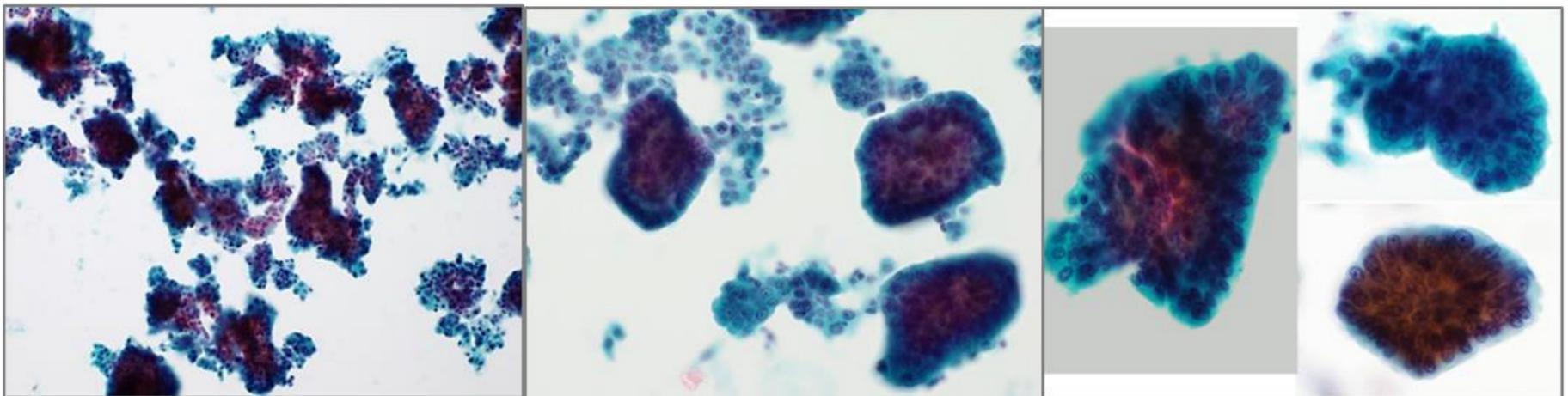
結合性の低下した異型細胞が、散在性あるいはルーズな結合性を伴って出現している。細胞は大型のものから小型のものまで見られ、大小不同と多形性が目立つ。核が偏在傾向を示すものや、細胞質が顆粒状を呈してアポクリン様の形態を示すものが認められる。LBCを用いた免疫染色では、腫瘍細胞はE-cadherin陰性を示し、小葉癌が示唆される。

## 症例 9: Diffuse large B-cell lymphoma



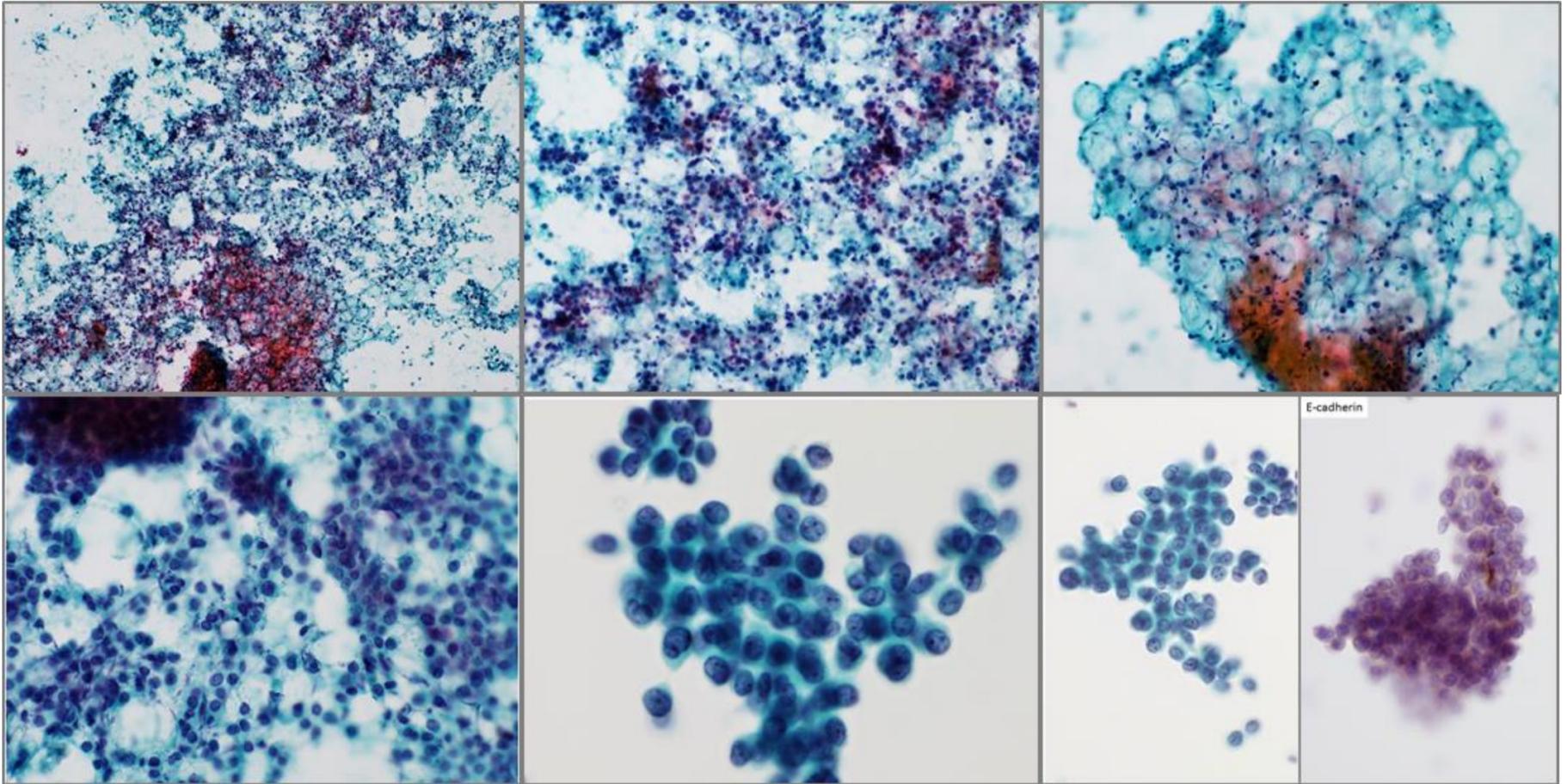
上皮性成分は乏しい。小型～中型のリンパ球を多数認めるが、個々の細胞に、核のくびれや深い切れ込みなどの異型は明らかではない。非常に多数のリンパ球が採取されていることから、悪性リンパ腫の可能性や、あるいは反応性に腫大した乳腺内リンパ節の可能性が考えられる他、本検体内に上皮性成分は乏しいものの、リンパ球浸潤の高度な浸潤性乳癌の可能性も否定はできない。

## 症例 10: Invasive micropapillary carcinoma



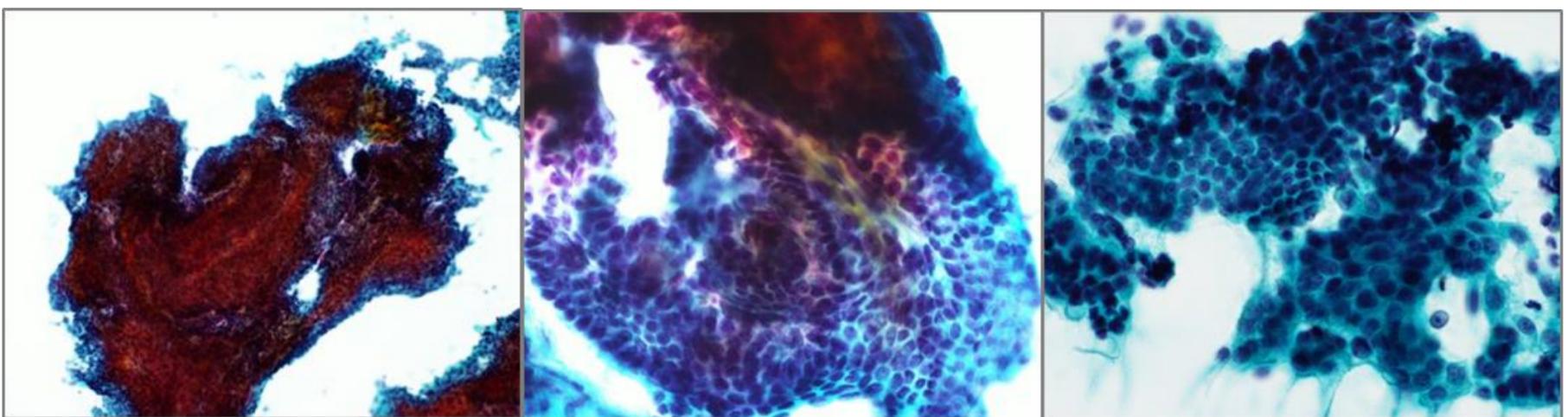
弱拡大では、多彩な形態を示す小型から中型の細胞集塊が多数認められる。強拡大では、胞巣内の細胞の核クロマチン量増加、核の大小不同などの細胞異型が観察され、集塊内に筋上皮の存在は認められない。細胞集塊は結合性のある立体的小集塊として観察され、集塊最外層に核配列の極性や、集塊辺縁部に微絨毛の存在がうかがわれる。

## 症例 11: Invasive lobular carcinoma, classical



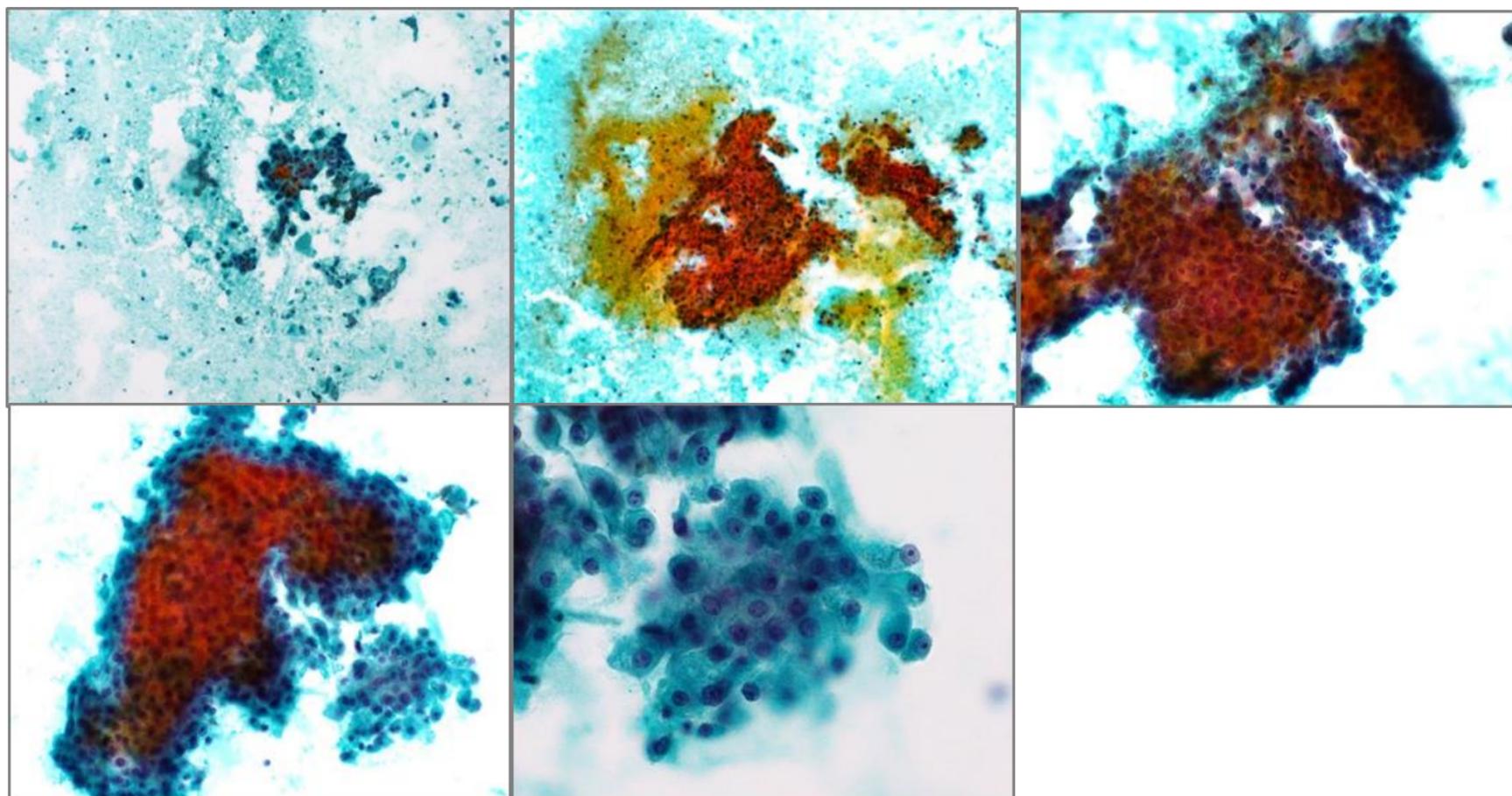
比較的小型均一な腫瘍細胞が孤立散在性ないし数個の小集塊状に出現している。個々の細胞の核は円形～楕円形で、繊細な核クロマチンを有する。細胞質内小腺腔を有する細胞や印環細胞様の細胞もみられる。細胞の結合性は緩く、数珠状配列と呼ばれる特徴的な線状配列も認められる。脂肪細胞集塊内にも、脂肪細胞隔壁内に周囲の反応を伴わず孤在性に浸潤する像もうかがわれる。LBC検体で施行した免疫染色では、E-cadherin陰性。

## 症例 12: Intraductal papilloma



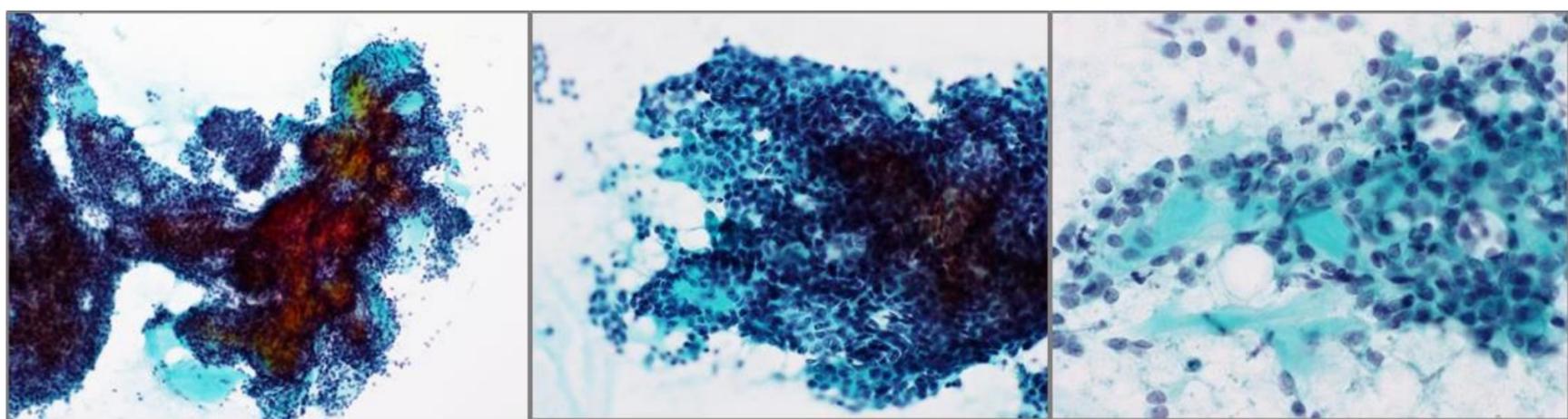
乳頭状集塊の出現や、背景の泡沫状マクロファージの出現から、嚢胞内乳頭状病変が示唆される。細胞集塊は全体的に結合性が強く、乳頭状構造の中心には線維性間質の存在が窺われる。集塊内には筋上皮の介在が窺われる。また、一部上皮にはアポクリン化生を認める。

### 症例 13: Apocrine carcinoma



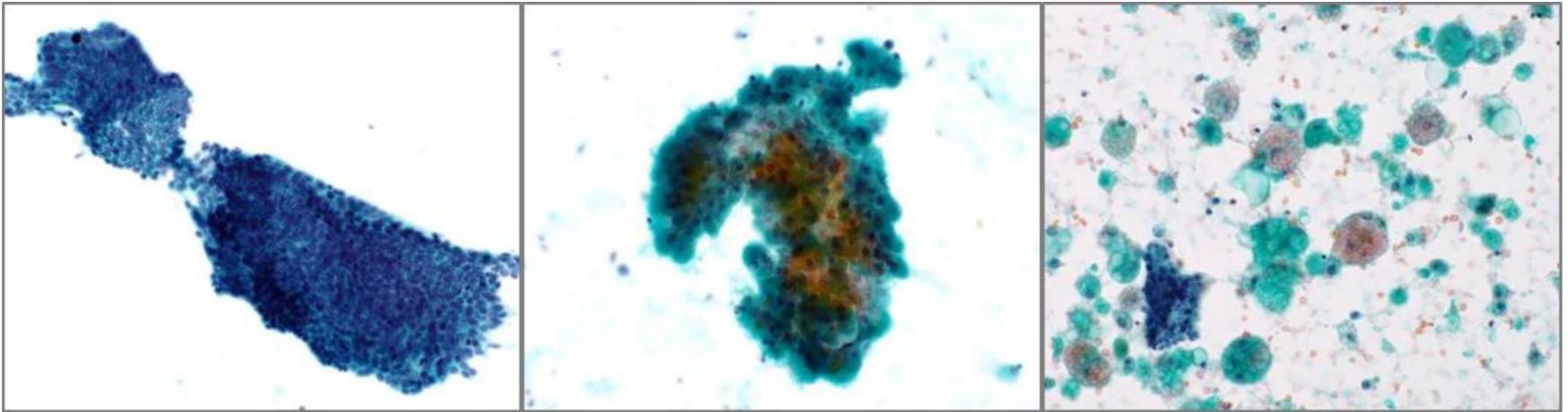
ライトグリーンまたはオレンジGに好染するアポクリン顆粒がみられ、アポクリン形態を示す細胞と判断される。核の大小不同や核腫大をみるが、症例4ほど高度ではない。

### 症例 14: Adenoid cystic carcinoma



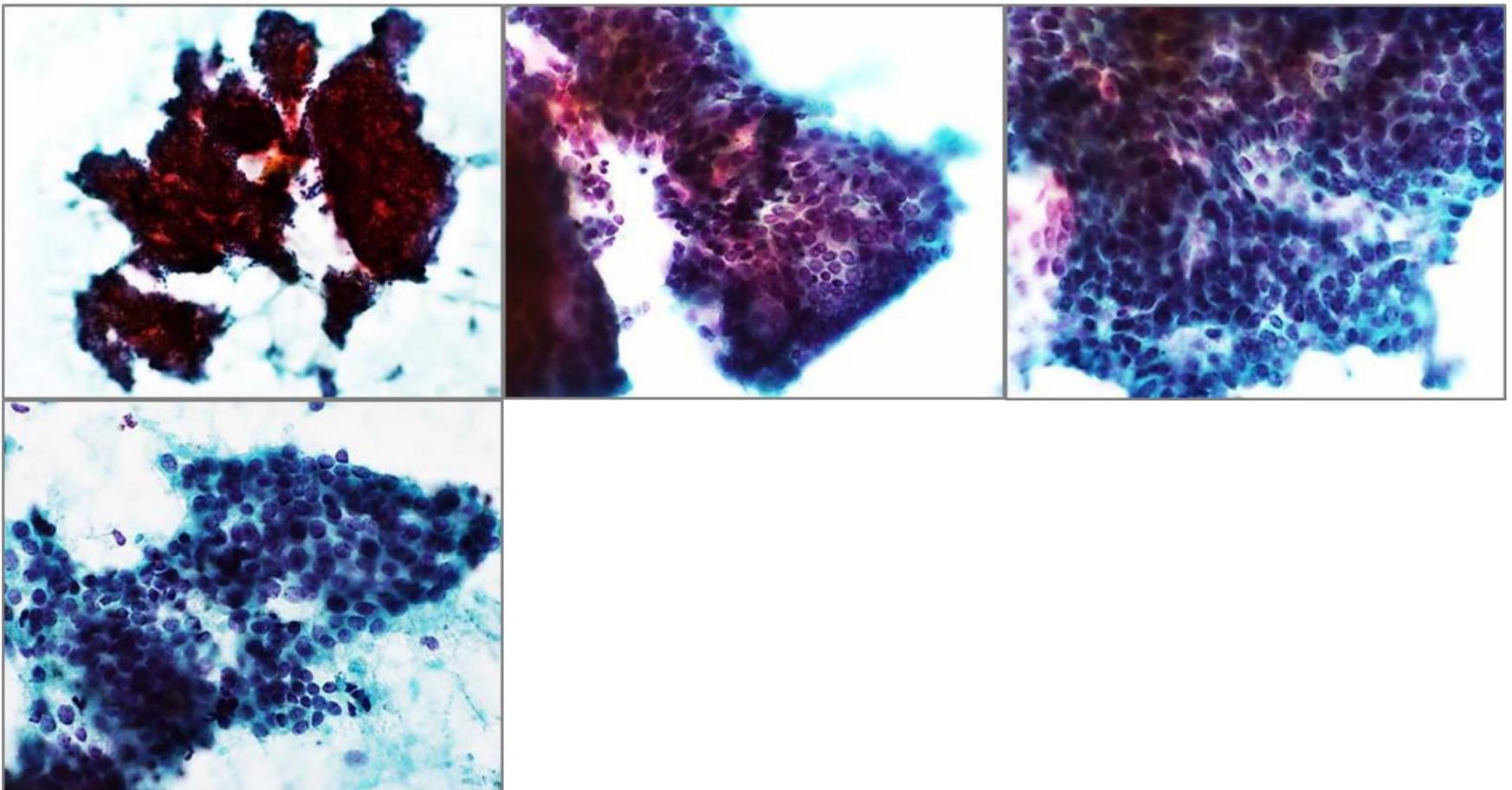
大型集塊状あるいは孤立散在性に、N/C比の高い小型細胞が多数出現している。細胞は円形～楕円形の核を有し、比較的小型均一で、微細顆粒状の核クロマチンを有する。集塊内には篩状の構造が窺われるが、腔内にライトグリーン好性の粘液様物質を容れる腔や、腺上皮細胞によって構成される小腺腔が混在して観察される。

### 症例 15: Mastopathy (Fibrocystic change and papillary apocrine change)



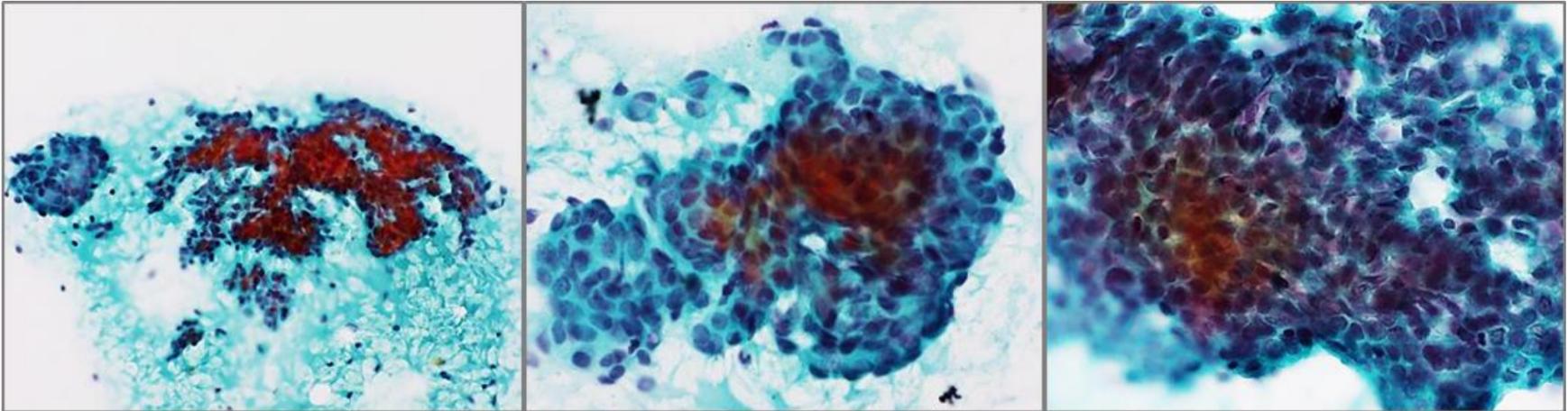
背景に多数の泡沫状マクロファージを認める中、シート状・小型腺管状に結合性良好な上皮細胞集塊を認める。個々の細胞は小型で異型に乏しく、細胞集塊には二相性が確認される。また、アポクリン化生細胞集塊も散見される。

### 症例 16: Cribriform carcinoma



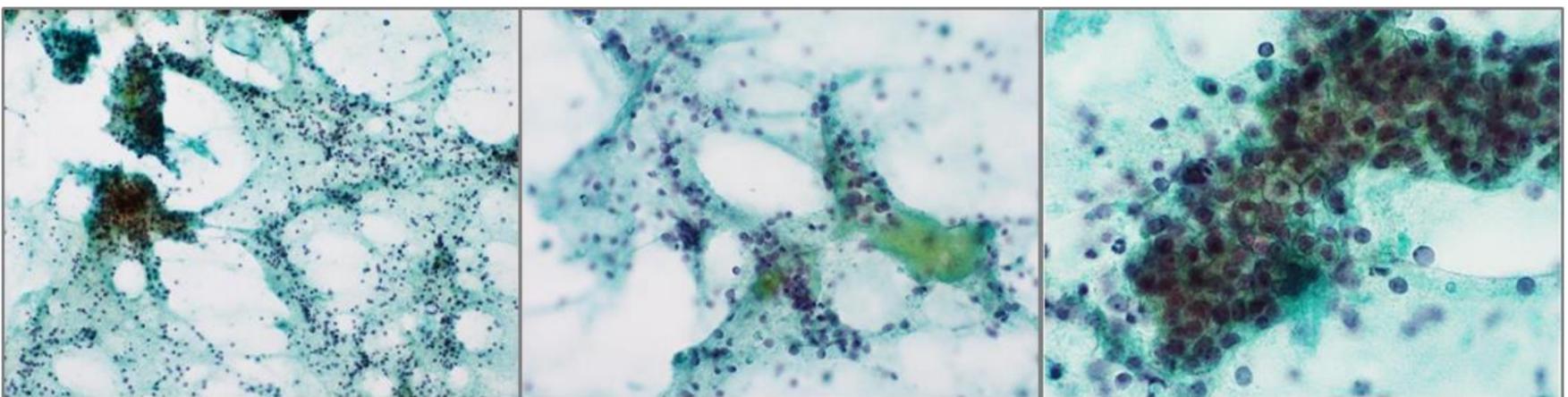
大型～小型の上皮細胞集塊を多数認める。殆どの細胞集塊において、内部に円形の小腺腔構造が観察され、篩状構造が示唆される。個々の細胞の核は、円形～類円形に腫大し、核クロマチン量増加を認める。

## 症例 17: Adenoma of the nipple



結合性の強い上皮細胞集塊が認められ、2細胞性を示す。背景には、孤立散在性に双極裸核が存在する。Paget病にみられる大型異型細胞は認められない。

## 症例 18: Lactational change



ライトグリーン好性でザラザラした分泌物を背景に、多数の裸核細胞を認める。細胞は円形で平滑な核縁を呈し、中心に明瞭な核小体を認める。また、所々に泡沫状ないし顆粒状の胞体を有する上皮細胞集塊があり、これらの細胞の核所見と、背景の裸核細胞の核所見は類似している。